

鏡かがみに照てらして白髪はくはつを見るみ
(張九齡ちようきゆうれい)

宿昔青雲志 蹉跎白髮年
誰知明鏡裏 形影自相憐

宿昔しゆくせき 青雲せいうんの志こころざし

解説 若い頃の大志も途中で挫折し、老年になって鏡にうつる白髪を歎いた詩。

蹉跎さた たり 白髪はくはつの年とし

語釈 ※宿昔しゆくせき。若い頃。※青雲志せいうんし。巧妙を立て、出世する志。
※蹉跎さた。つまづく。空しく時を過ごす。※誰知たれ。誰が知ろうか。
※形影けいえい。形は自分自身。実像。

誰たれか 知らん 明鏡めいきようの裏うち

通釈 昔は功名をあげて出世する大志を抱いていたが、失敗して

空しく時は過ぎ、白髪が生える年になってしまった。今この鏡の中に、自分と鏡に映るもうひとりの自分が、お互いにその白髪を憐れみ合おうとは、思いも掛けないことであつた。

形影けいえい 自らみずか 相あい 憐あわれまんとは